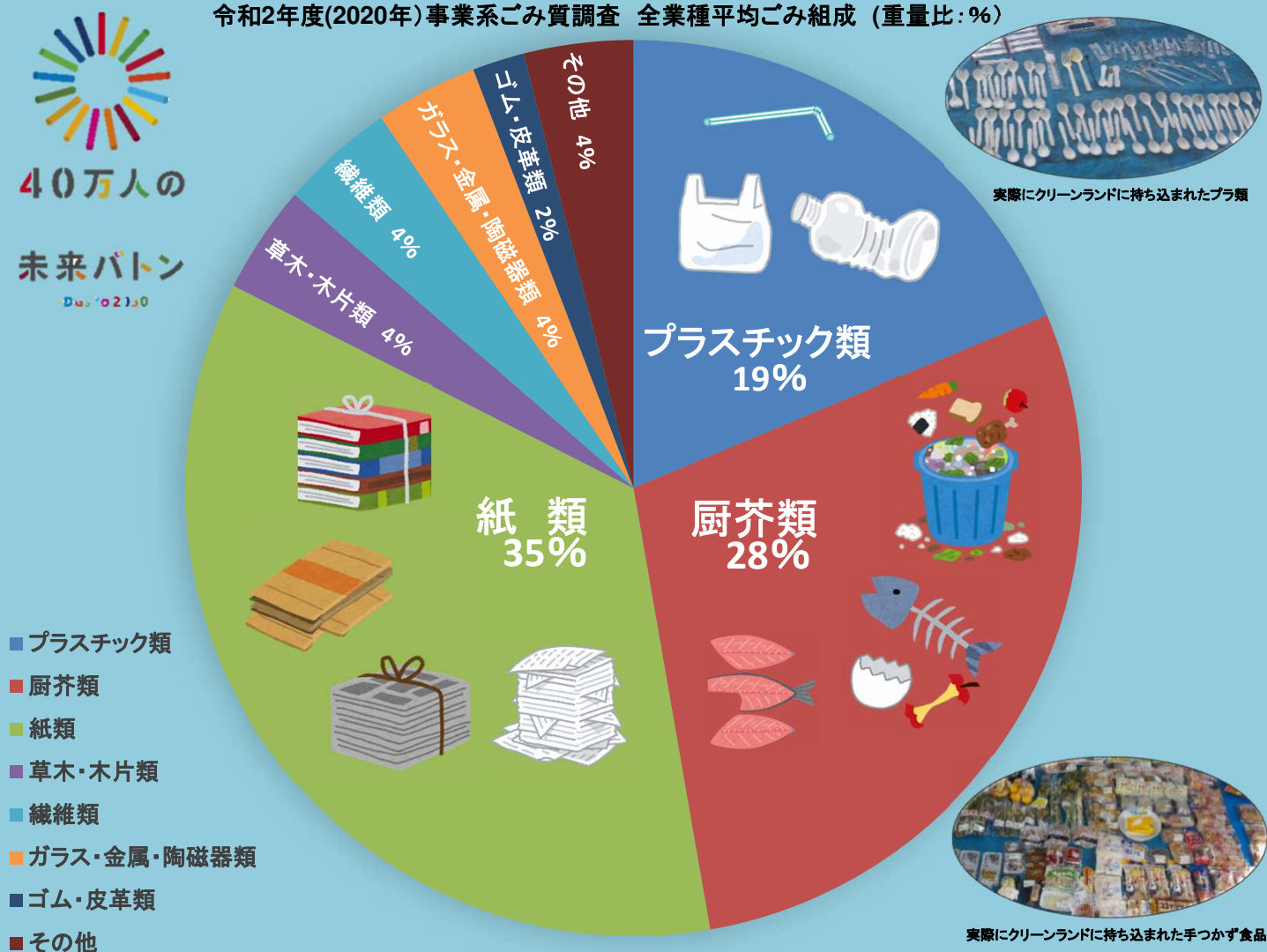


事業系ごみの組成調査を実施しました。

事業系全業種のごみ重量比で組成詳細を見ると、プラスチック類では、袋・シート類の容器包装が12.88%を占め、プラスチック成型品等が5.82%となっています。紙類では、段ボール箱等の梱包材が13.09%を占め、紙類が全体の35.20%となっています。厨芥類は、全体の28.57%を占め、そのうち6割が食品ロスに相当します。この食品ロスの半分は「手つかず食品(50%以上残存)」で、残り半分は食べ残し等の一般厨芥類となっています。

令和2年度(2020年)事業系ごみ質調査 全業種平均ごみ組成 (重量比:%)



全体の19%を占めるプラスチック類については、本来、産業廃棄物に該当するため一般廃棄物の処理施設である豊中市・伊丹市クリーンランドには持ち込みできません。紙類・厨芥類の発生抑制、リサイクルを推進する取り組みと併せて、適正処理について、搬入物検査の強化などの取り組みを進めていきます。

【バックナンバーについて】

「Renews」はバックナンバーも含め市ホームページからもご覧いただけます。市ホームページの検索機能で「Renews」で検索！

【発行】 豊中市 事業ごみ指導課 一般廃棄物指導係 TEL06-6858-2278

Mail jigyougomi@city.toyonaka.osaka.jp

【協力】 豊中商工会議所



スペシャルインタビュー

サステナ・ハース代表
ATCグリーンエコプラザ環境アドバイザー

立山 裕二 さん

インタビュアー(イ):今年度の事業系一般廃棄物管理責任者研修会の講師ありがとうございました。立山さんはサステナ・ハース代表としてどのような活動をされているのですか。

立山さん(立):環境に関する執筆活動や講演活動、また、おおさかATCグリーンエコプラザで環境アドバイザーをしています。



(イ):おおさかATCグリーンエコプラザでの環境アドバイザーとは具体的にはどのようなことされているのですか。

(立):おおさかATCグリーンエコプラザは、環境ビジネスに関する日本最大級の常設展示場で、エコ商品の展示や、出展企業の環境への取り組みを紹介するブースなどがあり、見学者に、商品や取り組みの説明を出店企業にかわり行っています。

(イ):小学校5年生から環境活動をされているとプロフィールにあります、なにかきっかけがあるのですか。

(立):当時、私が住んでいた尼崎は高度成長期の真ただ中で、200メートル先が見えないほど大気汚染がひどく、外に洗濯物が干せないような状態で、河川には大量のごみ、インクやペンキを原液のまま流されていることもあり、幹線道路は大型ダンプカーだらけで、大量の排気ガスをまき散らしながら走っており、横断するだけで喉が痛くなるなど、小学生ながら、これはおかしい、このままではいけないと思ったのがきっかけです。

(イ):環境に関する著書が数多くありますが、事業者におすすみがあれば教えていただけますか。

(立):そうですね、事業者向けであれば『利益を生み出す『環境経営』のすすめ』ですね。2009年に発行した本ですが、今読んでいただいても、内容は全く古くはないと思います。むしろ新しいという声もいただいています。今回の研修会でも、この本の内容をお話させていただいていますが、企業と地球が共に持続可能になるための『環境経営』を、本書では楽しみながら学んでいただけたと思います。



(イ):最後に事業者が環境に取り組むメリットとは。

(立):たとえば、単純に廃棄物を減らしたことによる収益のアップであるとか、環境配慮活動による信用度アップであるとか、メリットは色々あると思いますが、私が考える事業者が環境に取り組む一番のメリットは、創造力が活性化することです。環境配慮のために知恵を生み出すプロセスには「異業種的な発想」と「現在の市場に対する見方とは違った視点」のどちらも必要です。環境配慮活動に取り組むこと自体が、創造力活性化のトレーニングになるということです。

(イ):なるほど、環境への取り組みが人材育成にも繋がるといことですね。今回は研修会の講師並びにインタビューへのご協力ありがとうございました。

リサビニュース

アダプト活動に参加しませんか



「アダプト」(英語)とは、「養子にする」という意味。道路や公園などの公共の場所をわが子のように慈しみ、愛情をもって面倒を見る＝清掃・美化する活動を「アダプト活動」と呼んでいます。昭和60年(1985年)にアメリカのテキサス州で始まり、日本では平成10年(1998年)に導入されました。豊中市では、平成13年度(2001年度)に導入し、令和3年(2021年)10月末現在、44団体が活動されています。



清掃などの内容について、地域団体と市の間で覚書を交わし、団体は定期的な清掃・美化活動、市は清掃後のごみ回収など、双方が取り決めに沿って活動します。このほか市では、活動団体名を表示したサインボードを設置したり、活動に必要な清掃用具の貸出しも行っていきます。

アダプト活動に参加して行う地域清掃活動を企業の取組みとして行ってみませんか。

(問合せ)環境部美化推進課 06-6858-2276

YouTube「とよなか環境TV」

『大将は知らなかった』

～知らなかったではすまされない

事業系ごみの正しい処理方法について～

配信中



とよなか環境TV

検索

事業系一般廃棄物管理責任者研修会をオンラインで実施



今年度の研修会は『SDGsと環境型社会の基本(社会を変えるための初めの一步)』というテーマでSDGsの基本、企業として環境問題に取り組むメリット、サステナブル経営、ごみ減量に関わる内容について講演いただいたものを、YouTubeで配信しました。



編集後記

今年度の事業系一般廃棄物管理責任者研修会でもお話いただいたSDGsですが、最近ではSDGsを意識した活動をする企業も増えてきています。SDGsを意識した活動と聞くと何かスケールの大きい大変なイメージですが、紙使用量の削減、ペーパーレス化などもSDGsに貢献できる取り組みのひとつです。私たちが使用する紙の生産のために、森林が伐採され、各地で生態系を脅かしています。ペーパーレス化などにより紙使用量を削減することにより紙パルプの原料である木材伐採が抑制され、森林資源の保護につながり、森林資源の保護を謳った、SDGsの『目標15「陸の豊かさを守ろう」』に貢献できます。